

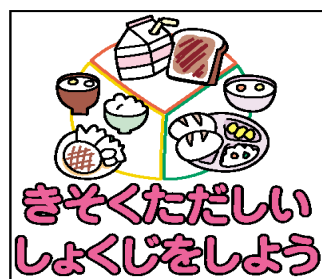


2025年
1月号
甲斐市立竜王東小学校

3学期が始まりましたが、みなさんは、どんな目標を持ってスタートしたでしょうか？

今年も給食室はみなさんに喜ばれるような給食を作っていきたいとおもいますのでよろしくお願いします。

【学校給食の役割とは？】



食べるだけではもったいない！！
学校給食の始まりは、貧困児童を栄養不足から救うためのものでした。しかし、今では、栄養補給の役割のほかに、食品を選択する能力、食事のマナー、感謝の心、地域の食材や郷土食などについて学ぶ教材としての役割もあります。給食を味わいながら、食に関する知識をどんどん身につけていきましょう！

♣ 1月24日は「給食記念日」です ♣

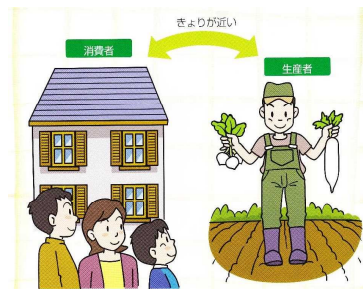
～学校給食について知ろう！～

1月24日～30日は、全国学校給食週間です。また、1月は学校給食月間です。東小学校では、1月中に昔の献立や郷土料理を実施します。この機会に学校給食の始まりについて知りましょう。
第二次世界大戦により、日本中が食糧不足で、多くの子どもたちが栄養失調になりました。戦後、ラウ（アジア救済公認団体）から、緊急に脱脂粉乳などが配られ、昭和21年12月24日に再び学校給食が始まりました。この日が学校給食の誕生にあたりますが、冬休みになるため1ヶ月のばして、1月24日を「学校給食の記念日」としました。



【地域の食べものを知り、積極的に食べよう】

「地産地消」や「身土不二」という言葉がありますが、どちらにも“暮らしている地域でとれる安全・安心な物を食べよう”という意味が含まれています。その安全・安心な物を食べるには、その土地でどのような物が作られているのか知ることが大切です。



食品を選ぶ際は、産地や生産者を意識してみませんか？



直売所や道の駅、スーパーマーケットの地場産物コーナーなどを活用しましょう。地場産物のほか、自分が応援したい地域や被災地の産品を選ぶことは、その産地の生産者を応援することにつながります。

阪神・淡路大震災から30年

災害時の『食』を備えましょう



1995（平成7）年1月17日に、阪神・淡路大震災が発生しました。寒さ厳しい中、被災した多くの人たちを支えたのは、ボランティアによって届けられた炊き出しの「おむすび」です。震災発生から5年が過ぎた2000年、兵庫県が事務局を務める「ごはんを食べよう国民運動推進協議会」は、食料の重要性や、ボランティアの善意を忘れないために、この日を「おむすびの日」と決めました※。

阪神・淡路大震災の発生から今年で30年となります。昨年元旦に発生した令和6年能登半島地震が記憶に新しいですが、この30年の間にも各地で大きな災害が頻発しています。災害発生直後は支援が届かないということを前提に、一人ひとりが自分の命は自分で守ることを意識し、普段から備えをしっかりとしておくことが大切です。

※2018（平成30）年8月31日に同協議会は解散し、この取り組みは、公益社団法人米穀安定供給確保支援機構へ引き継がれています。

